

私のカンボジア支援 - その4 - 村に学校を造ってください。

◇村人は『学校に行っても何の役に立たない』と思っています。

「私の村は貧しくて、子どもを学校に通わずに畑で働かせる家が多いです。多くの村人は、『学校に行っても何の役に立たない』と思っています。私たち長老は、お寺の祭りでお金を集めて、村で最も貧しい家にお金をあげて、その家の子どもを学校に通わせるように話しています。入学しても、子どもは1年間も通わずに学校を辞めてしまいます。

木造校舎は木が腐ってボロボロです。屋根はトタンが腐って雨が漏ります。雨が降れば学校は休みです。内戦前に私たち村人が建てた木筋コンクリート校舎は、ポルポト軍に壊されました。

私たちは、教育は大事だと思っています。今の壊れたボロ校舎では、子どもは学校に来ません。親も入学させません。子どもに教育は必要です。子どもに教育を受けさせたいのです。村に学校を建ててください！！お願いします。」

私は、長老たちの熱意に心を打たれました。

長老たちの誰も自分の名前も書けませんでした。

その後、大きな穴のあいた凸凹の国道を5時間かけて村の学校調査に3回行き、長老・学校の先生・村人と話し合いを重ねた。2001年10月校舎建設を始め、2002年3月19日待望の校舎が完成しました。

〔それから12年後、プノンペンで当時の子供たちと再会〕

私たちが建設した学校で勉強して、プノンペンの大学で勉強する4人の若者に会った。「僕はあなたを知っています。学校を建ててくれてありがとう！僕の家は大学に通える身分ではありませんでしたが、村の長老たちのお陰で勉強を頑張れました。私は、将来は建築技師になります。私は看護婦になって村人を助けたいです。僕は社長になってお金を稼ぎ、村の貧しい人を助けます。」と笑顔で口々に話してくれた。

学校を建設した成果が、12年後に大きな花が咲いた。嬉しかった！大感激だった！



プノンペンの大学で勉強する4人の若者

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、下記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名:公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。

右のQRコードからもアクセスできます。

お問い合わせは、
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019
E-mail: info@ssfc.or.jp
ホームページ: http://www.ssfc.or.jp/



http://www.ssfc.or.jp/

※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「よにゆむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ញីម によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゆむ通信

2018年6月号 No.6

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019
E-mail: info@ssfc.or.jp
ホームページ: http://www.ssfc.or.jp/

◇カンボジア教育省とMOUを締結。
これで、教育省認定の団体となり、SSFCの活動への協力も受けやすくなります。



チャップ・ソボンNGO担当部長と私



6月11日(月)9時20分、「教育省とのMOUの締結」のためカンボジア教育省にチャップ・ソボンNGO担当部長を訪問しました。「教育省大臣からサインをもらったから、取りに来るように」との連絡があつての訪問です。既に活動は始まっていますが、更に、教育省と協力しながら充実した活動を展開いたします。(カンボジアで活動するには、外務省にはインターナショナルNGOとして登録し、支援活動の該当する省庁とMOUを締結する必要があります。SSFCは教育支援を行いますので、教育省とMOUを締結する必要がありました。)

◇「私も必ず行く！バクコン郡の校長と先生に参加を進め、出張許可を出す。」(サイ・チャ・スホン教育長)

6月15日(金)9時、シェムリアップ州サイ・チャ・スホン教育長は州教育局の玄関で待っていてくれました。教育長室で直ぐに面談しました。SSFCからは、7月6日の授業発表会への出席を要請し、確約をいただきました。教育長の出席も州知事の許可が要るので、招請状をお渡ししました。各中学の先生が授業発表会に参加するには、州教育局の出張許可が必要なので、ランサイ中学校の副校長にクメール語で作ってもらった授業発表会の案内チラシを渡し、許可の通達を出してくれるようお願いしました。



サイ・チャ・スホン教育長と

教育長は、「ランサイ中学校の先生の指導力の向上と生徒の学習意欲」見たい。必ず、アラインランサイ中学の授業を見に行く。バクコン郡にある13の中学校の校長と先生や、周辺の中学校にも、ランサイ中学の授業発表会に参加して勉強してくるように出張許可を出す」と協力を約束してくれました。

◇ポットロン小学校が先生全員の要望でSSFCの研究協力校になりました。

6月11日、ポットロン小学校。4人の先生全員に「生徒によく分かる授業の仕方」について「よにゆむ通信」などを見せて提案、SSFCの研究協力校となりました。先生たちは、「先生の指導力の向上を図りたい。田舎の島の学校でも、生徒の学力を高めたい。生徒に分かるように教えられなくて悩んでいる。教え方を学び、楽しい授業をしたい。師範学校で習ったことと学校で教えることは違う。授業の仕方を教えて欲しい」など抱負を語っていました。



SSFCから、10月から指導を始めることを伝えました。

ホームページ: http://www.ssfc.or.jp/

◇アラインランサイ中、態度も悪く、私語も多いイン・ビスナー先生に失望・・・。

イン・ビスナー先生は、今日教える教科書のページを生徒に読ませ、次の生徒にも教科書を読ませ、教科書の文章を読むだけで授業を終わらせています。授業中、自分は椅子に坐ってジュースを飲んでいたりするだけで、授業に使う教材や資料など、何も用意していませんでした。授業研究会で学んだことと異なり、「事前の勉強」をしないで、教科書を一方的に読むだけです。研究会での態度も悪く、私語が多く、周りの先生に話しかけたり、話し合いの邪魔をします。周りの先生も迷惑しています。笑顔がなく、他の先生に威圧的な態度なので、先生たちも避けています。校長、副校長もお手上げのようです。

日本の学校でもあることですが、「本人も賛成し、先生全員の賛成を得て始めた研究であるにも関わらず、非協力的な先生」がいます。ビスナー先生もそうみえました。

SSFCの指導後も、旧態依然として、何の進歩もありません。注意し、奮起を促しました。

◇翌日・大豹変！！ビデオを使い、生徒に考えさせ・活気ある授業に進歩！

6月14日（木）8：15～9：00

イン・ビスナー先生の歴史の授業

「カンボジアの民主主義」

授業前にビスナー先生に会いました。

ここにこして「おはようございます」

自分から挨拶するのです。

住田「・・・！」驚きです！！今までに無かったことです。

教室に入りました。更に驚きです！！

教室には「パソコンがセットされている

のです。ビスナー先生が昨日の研究会の後、授業に使うために副校長に頼んでインターネットから、カンボジアの産業（動画）を取り出して資料を作ったとの事です。

授業は、生徒3人に教科書を読ませて学習する内容を説明し、課題を黒板に書き、生徒に班ごとの課題を持たせて始まりました。

「動画を見てわかることをノートに書いて下さい。」パソコンに映像が映ると、生徒は食い入るように見えています。見ながら課題に関係ある映像をメモしています。映像が終わると班ごとに集まり、メモを出し合い課題について話し合い、発表しました。



パソコンを用意、注目を浴びたイン・ビスナー先生の授業

イン・ビスナー先生

◇授業後の研究会でのイン・ビスナー先生の話

「パソコンで資料を見せたので、生徒も興味を持って集中していた。生徒に分かりやすく、考えさせる授業が出来た。私も教えやすく、楽しく授業が出来た。

事前の勉強もしてきたので、映像に出ていないことも教えられた。SSFCで研究している4項目が大事なことがよく分かった」と終始笑顔でした。

※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「よにゆむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。

◇授業後の研究会(住田の感想)

イン・ビスナー先生の一夜にして変わった大きな進歩に驚いた。大変嬉しいことです。

今日の授業は良かった。先生が資料をパソコンで見せたこと。生徒が授業に集中したこと。画面の資料によって、生徒に考えさせることができた。授業研究会でも、教科書を使いつつ、インターネットから得た資料を、パソコンで見せ、与えた課題について生徒一人一人に考えさせる工夫をしたことなどを発表していた。その後の研究会でも、他の先生の資料の張り付け等を積極的に手伝っていた。

もともと力のある先生だったのだと思う。

何が原因かは分からないが、先生間でも「浮いた存在」だったので、素直に協力できなかったのかもしれない。私たちも研究に悪い影響を与える行為に対しては、毅然とした態度で臨むことが必要だと痛感した。ビスナー先生も、皆と一緒に仲間になって研究するきっかけを待っていたのかもしれない。このことが契機になって、研究会は勿論、学校の先生間の雰囲気がガラッと変わった。「授業発表会」へ向けて学校全体が一つにまとまって来た。

「授業発表会」が成功する機運が高まったと確信した。嬉しいことです。

◇奨学金給付生徒の紹介 ソウ・クダイ(フンセン・スワイトム高校1年 女 17才)

○家庭環境:父は3年前に、母は昨年1月に病死した。両親死亡のためおばさんと住んでいる。4人兄弟の末っ子。兄と2人の姉がいる。兄は障害を持っているため家にいる。長女はプノンペン国立医科大にフランスの団体の支援で通っている。次女もフランスの団体の支援を受けて医科大の予備校に通っている。○一家の収入:おばさんが近所の畑の手伝いをして、お米をもらってくる。ご飯だけ食べさせてもらっている。○学校の成績と得意科目:中学校の成績は、クラスで2・3番。期末テストは2番、中学卒業試験はA。物理・化学・数学が得意。○性格等:健康で学校を休んだ事がない。質問にハキハキと答える。いつも明るく勉強に意欲的で、生活態度からは貧しさを感じさせない雰囲気を持っている。中学の物理・化学の先生になりたいので、大学進学を希望している。

○周囲の話:「勉強が出来るクダイにはかわいそうですが、高校に行くことを諦めていました。それがSSFCの奨学金を受けて高校に行けることは夢のようだとクダイは喜んでいた」とのこと。

勉強も今まで以上に頑張ると思います。



ソウ・クダイ



近くに住むお祖母さんと

ホームページ: <http://www.ssfc.or.jp/>